

# 社団法人 日本天文学会 2010 年度事業報告書

## I. 巡回展、七夕講演会（定款第 2 章第 5 条 8 項に該当の事業）

1. 2009 年の世界天文年巡回展：「ガリレオの天体観測から 400 年：宇宙の謎を解き明す」を、国立博物館などと立案し展示を行なったが、今年度も引き続き巡回展を、防府市（防府市青少年科学館 4 月～6 月）、金沢市（いしかわ子ども交流センター、7 月～9 月）岡山県浅口市（岡山天文博物館、10 月～11 月、浅口市健康福祉センター11 月、岡山天文博物館、11 月）、新居浜市（愛媛県総合科学博物館 12 月～2011 年 1 月）で行なった。2011 年 3 月～5 月に熊本市立熊本博物館で開催し終了する予定である。
2. （7 月 7 日を中心とした）7 月上旬に全国同時七夕講演会を全国 77 か所で開催し、約 4000 人が参加した。また、同時期には京都府の小中高校を対象に京都大学のスタッフや大学院生による出張天文授業も行われ 47 校 1000 人が参加した。

## II. 出版物の刊行（定款第 2 章第 5 条 2, 3 項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第 62 巻 1 号～6 号、総論文数 136 編（うち Letter 12 編、飛騨天文台特集 7 編）、総頁数 1,666 頁、発行部数 1,550 部、偶数月の 25 日発行、科学研究費補助金（学術定期刊行物。日本学術振興会）780 万円を受領。
2. 天文月報：第 103 巻 1 号-12 号を刊行。総頁数 782 頁、総目次 10 頁、発行部数 3,200 部、毎月 20 日発行。
3. 年会予稿集：2010 年春・秋季年会の 2 回発行、総頁数 606 頁、春 850 部、秋 800 部印刷。
4. ジュニアセッション：春季講演予稿集 111 頁、600 部印刷。

## III. 年会の開催（定款第 2 章第 5 条 1 項に該当の事業）

### 1. 2010 年春季年会

2010 年春季年会は、3 月 24 日（水）から 27 日（土）の 4 日間、広島大学（広島県・東広島市）にて口頭講演会場 7、ポスター会場 6 を使って開催された。講演件数は口頭(a)講演が 412 件、ポスター ((b)講演+(c)講演) が 238 件であり、合計で 650 講演だった。年会参加者は 870 名であった。ジュニアセッションのみの参加者は 231 名であった。開催地理事の小畠康史氏をはじめ、広島大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、滞りなく順調に進行した。また、以下の特別セッションが開かれた。座長は 51 名が務めた。

懇親会：3 月 26 日（金） 大学生協北 2 食堂（参加者は計 249 名）

### ◇記者発表

春季年会の前日、3 月 23 日（火）14:00 から、広島大学本部 2 階会議室にて行われた。國枝秀世理事長より挨拶と日本天文学会および各賞の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関 4 社の出席があった。これらの内容は、4 月 19 日までに確認できたもので、テレビニュースにて 2 件の報道があった。

(1)ガンマ線で探る銀河宇宙線の姿 -一万光年かなたの高エネルギー粒子-

記者会見出席者：水野恒史（広島大学）

(2)超新星残骸 W28 と衝突する星間分子雲からのガンマ線放射の発見 -宇宙線の起源解明に挑む-

記者会見出席者：片桐秀明（広島大学）、山崎 了（広島大学）、福井康雄（名古屋大）

(3)銀河系で最大スケールの星はガンマ線を放射しているのか？ -太陽の 100 倍もの質量をもつエータカリーナ星とその伴星の相互作用-

記者会見出席者：高橋弘充（広島大学）、内山泰伸（スタンフォード大学）

#### ◇天文教育フォーラム

年会初日の 24 日午後 3 時から 1 時間半、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが開催された。テーマは「世界天文年後の天文教育と普及」で、昨年の世界天文年で企画されたさまざまな活動から 4 名が報告をした。

この世界天文年をきっかけとして昨年 12 月に東京で開催された「宙博（ソラハク）」について、インターネット総合研究所の藤原洋氏が紹介した。

「君もガリレオ」プロジェクトについて国立天文台の縣秀彦氏からの報告があった。

学会の副理事長でもある京都大学の柴田一成氏が「全国同時七夕講演会」について報告した。

フォーラムの開催時間帯が口頭セッションの合間であったために、質疑に十分な余裕をとることができなかったが、参加者も約 150 名と盛況であった。

#### ◇林 忠四郎賞受賞記念講演

年会 3 日目の総会后、E 会場にて 17:00 から 30 分間、2009 年度林 忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者は国立天文台の常田佐久氏で、講演題目は「「ようこう」・「ひので」による太陽物理の急進展＝今、太陽がおもしろい！＝」であった。講演では、常田氏が中心となって進めてきた太陽観測衛星プロジェクトおよびその成果がわかりやすく解説された。会場は 200 名を超える盛況ぶりであった。

#### ◇研究奨励賞受賞記念講演

年会 2 日目、E 会場で 15:30 から、2009 年度研究奨励賞受賞者 3 名の記念講演があった。一人あたり 20 分という短い時間ではあったが、それぞれの研究内容がわかりやすく紹介された。受賞者と講演題目は次のとおりである（五十音順、敬称略）。

内山泰伸（スタンフォード大学）「超新星残骸での宇宙線加速と磁場増幅」、

前田啓一（東京大学）「超新星の爆発構造」、

山崎 了（広島大学）「ガンマ線バーストの多様性の起源について」、

参加者は 200 人程度と盛況であった。また、今回は奨励賞記念講演が総会よりも前に開催されたため、記念講演に先立ち受賞者の表彰も行われた。

#### ◇ALMA 特別セッション報告

2010 年 3 月 25 日に、約 150 人が参加し開催された。

司会進行は国立天文台 ALMA 推進室長の立松健一氏が行った。

まず、東アジアのアルマ・プロジェクト・マネージャー井口 聖氏によりプロジェクトの進捗状況の報告、ならびに、アルマの初期観測がどのような装置で行われるかの説明があった。

アルマ東アジア地域センター・マネージャーの奥村幸子氏より、アルマの共同利用の枠組みの説明が、地域センター・サポート・アストロノマーの西合一矢氏より、観測提案までに準備されるユーザー支援に関して紹介があった。

アルマの3本のサイエンスの柱のうちの2分野に関して、星・惑星系形成分野から茨城大学の百瀬宗武氏、系外銀河分野から東京大学の河野孝太郎氏の講演があり、アルマの初期観測に対する期待が述べられた。

#### ◇保育室

保育室は広島大学敷地内の「ひまわり保育園」の一室、および理学部 A004 号室を使用した。10 家族、子供 14 人の利用があった。

#### ◇ジュニアセッション

第 12 回ジュニアセッションは、3 月 27 日の午前および午後に行われた。天文教育普及研究会と高校生天体観測ネットワークとの共催、広島大学、日本惑星協会の後援で開催した。口頭発表 45 件とポスターのみ発表 7 件があり、合計 52 件の発表があった。タイの高校生 6 名が来日して 3 件の発表を行った。口頭発表は、ライブ！ユニバースのご協力により、インターネットで中継された。ジュニアセッションへの参加の手続きをした人数は 231 名であり、研究者の参加も加えると約 300 名ほどの参加者があった。司会は、川端弘治氏、植村誠氏、吉田道利氏（広島大学）、藤沢健太氏（山口大学）が行った。吉川 真氏の小惑星探査機「はやぶさ」についての講演があった。

#### ◇公開講演会

3 月 28 日（日）13 時 30 分～16 時 10 分に東広島市中央公民館 大ホールにて、「広島から宇宙を探る-天文研究フロンティア-」というテーマで行われた。約 100 名に及ぶ熱心な来場者があった。

本企画は広島大学、広島大学宇宙科学センターとの共催で、広島県教育委員会、東広島市教育委員会の後援で実施された。

#### ◇東広島天文台見学

公開講演会終了後、東広島天文台・かなた望遠鏡の見学会を広島大学宇宙科学センターの協力で行った。参加者は 43 名でバスや自家用車にて天文台を訪れた。

## 2. 2010 年秋季年会

2010 年秋季年会は、9 月 22 日（水）から 24 日（金）の 3 日間、金沢大学（石川県・金沢市）にて口頭講演会場 8、ポスター会場 3 を使って開催された。講演件数は口頭(a)講演が 362 件、ポスター ((b)講演+(c)講演) が 237 件であり、合計で 599 講演だった。年会参加者は 820 名であった。開催地理事の藤本龍一氏を始め金沢大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、滞りなく順調に進行した。

懇親会： 9 月 23 日（木） 金沢大学生協自然研食堂ホール （参加者は計 272 名）

#### ◇記者発表

秋季年会の前日、9月21日（火）14：00から、金沢大学自然科学研究系図書館・南福利施設の会議室にて行われた。本間希樹年会理事より今回の年会に関する紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関9社の出席があった。これらの内容は、9月27日までに確認できたもので、テレビニュース、新聞にて14件の報道があった。

(1)はやぶさ探査機の大気圏再突入の地上観測

記者発表出席者：渡部潤一，大川拓也，佐藤幹哉（国立天文台），大西浩次（長野高専）

(2)草食系ブラックホールの発見

-ブラックホール新星 XTE J1752-223 の出現から消失まで-

記者発表出席者：三原建弘（理化学研究所）

(3)宇宙の一番星が見えてきた

-ハッブル・ウルトラ・ディープ・フィールドで発見された131億光年彼方の銀河は一味違う-

記者発表出席者：谷口義明（愛媛大学）

◇天文教育フォーラム

9月22日 17時～18時30分（天文教育普及研究会との共催による） 約100名が参加。

テーマは「著作権について理解しよう ～天文学の知的財産を教育・アウトリーチ現場で存分に活用するために」と題して、3名の講師による講演とパネルディスカッションを行った。

◇保育室

金沢大学自然科学本館2階の207号室を使用。3家族、子供3人の利用があった。

◇公開講演会

9月25日（土）13時～16時 北國新聞赤羽ホール

「宇宙の謎に挑む 最先端の科学が解き明かす宇宙の姿」というテーマで行われた。参加者、約200名。

講演：

川口淳一郎教授（宇宙科学研究所） 「はやぶさとイカロス：最先端の宇宙探査技術」

家 正則教授（国立天文台） 「すばるで見る宇宙の一番星」

村上敏夫教授（金沢大学） 「ガンマ線バーストって何なんけ？」

の3講演が行われた。

本企画は、金沢大学、金沢大学附属高等学校、石川県教育委員会、金沢市教育委員会、北國新聞社の後援、石川県高校理化部会の協力で実施された。

## IV. 各賞の授与（定款第2章第5条5項に該当の事業）

春季通常総会の場で、次の方々へ2009年度の各賞を授与した。

◇天体発見賞 (5氏)

- ・板垣 公一 (いたがき こういち) 氏 : 彗星 C/2009 E1 の発見、新星へびつかい座 V2672 の発見、新星エリダヌス座 KT の発見、超新星 2009N の発見、超新星 2009ds の発見、超新星 2009fu の発見、超新星 2009ga の発見、超新星 2009gf の発見、超新星 2009hi の発見、超新星 2009im の発見、超新星 2009js の発見、超新星 2009kr の発見、超新星 2009md の発見、超新星 2009mh の発見、超新星 2009nk の発見
- ・野口 敏秀 (のぐち としひで) 氏 : 超新星 2009at の発見
- ・西山 浩一 (にしやま こういち) ・  
梶島 富士夫 (かばしま ふじお) 氏 : 新星 いて座 V5581 の発見、新星 いて座 V5583 の発見、新星 いて座 V5584  
の発見、新星 わし座 V1722 の発見、超新星 2009ls の発見
- ・西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏 : 新星 V496 の発見

◇天文功労賞 (4氏)

(長期的な業績)

- ・板橋 伸太郎 (いたばし しんたろう) 氏 : 「60年にわたる太陽黒点観測」

(短期的な業績)

- ・SonotaCo ネットワーク (代表 植原 敏 うえはら さとし) 氏 :  
「流星の同時多地点ビデオ観測ネットワークによる多数の新流星群の発見」
- ・三品 利郎 (みしな としろう) 氏 : 「木星面の衝突痕の検出と迅速な報告」
- ・佐藤 英貴 (さとう ひでたか) 氏 : 「2009 MB9 を LINEAR 周期彗星 (P/2004X1) と同定」

◇研究奨励賞 (3氏)

- ・内山 泰伸 (うちやま やすのぶ) 氏 : スタンフォード大学 ・ SLAC 国立加速器研究所 ・  
パノフスキーフェロー  
研究テーマ : 「超新星残骸における粒子加速と宇宙線起源の研究」
- ・前田 啓一 (まえだ けいいち) 氏 : 東京大学 数物連携宇宙研究機構 ・ 特任助教  
研究テーマ : 「超新星爆発構造の理論・観測的研究」
- ・山崎 了 (やまざき りょう) 氏 : 広島大学 ・ 助教  
研究テーマ : 「ガンマ線バーストの多様性に関する理論的研究」

◇林 忠四郎賞 (1氏)

- ・常田 佐久 (つねた さく) 氏 : 国立天文台 ・ 教授  
研究の表題 : 「飛翔体観測装置による太陽の研究」

◇欧文研究報告論文賞 (1編)

- ・論文題目 : “Evidence for Solar-Wind Charge-Exchange X-ray Emission from the Earth’s Magnetosheath” ,

著者: 藤本龍一 Fujimoto, Ryuichi; 共著者 Mitsuda, Kazuhisa; Mccammon, Dan; Takei, Yoh; Bauer, Michael; Ishisaki, Yoshitaka; Porter, Scott F.; Yamaguchi, Hiroya; Hayashida, Kiyoshi; Yamasaki, Noriko Y.

## V. 総会・評議員会および理事会（定款第6章第29-43条に該当の事業）

### 1. 総会

2010年春季総会

日時：2009年3月26日（金）16:00～17:30  
場所：広島大学・法経B257教室（広島県・東広島市）  
議長：國枝 秀世氏（天文月報2010年6月号 p416 議事録参照）

2010年度秋季総会

日時：2010年9月23日（木）16:00～17:15  
場所：金沢大学・角間キャンパス自然科学大講義棟大会議室A（金沢市）  
議長：國枝 秀世氏（天文月報2010年12月号 p776 議事録参照）

### 2. 評議員会

日時：2010年1月23日（土）13:00～17:40  
場所：東京大学理学部4号館1320号室（東京・本郷）  
議長：山田 亨氏（天文月報2010年4月号 p300 議事録参照）

日時：2010年3月27日（土）12:30～13:30  
場所：広島大学・東広島キャンパス理A017会議室（広島県・東広島市）  
議長：谷口 義明氏（天文月報2010年6月号 p410 議事録参照）

日時：2010年7月3日（土）13:00～17:10  
場所：東京大学理学部1号館338号室（東京・本郷）  
議長：牧島 一夫氏（天文月報2010年9月号 p595 議事録参照）

日時：2010年9月23日（火）12:30～13:30  
場所：金沢大学角間キャンパスG15会議室（金沢市）  
議長：嶺重 慎氏（天文月報2010年12月号 p775 議事録参照）

### 3. 理事会

日時：2010年1月9日（土）13:00～17:30  
場所：東京八重洲ホール4F412会議室（東京・八重洲）  
議長：國枝 秀世氏（天文月報2010年4月号 p298 議事録参照）

日時：2010年2月23日（土）17:30～18:30  
場所：国立天文台すばる棟院生セミナー室（東京・三鷹市）  
議長：國枝 秀世氏

日時：2010年3月26日（金）12:35～14:25  
場所：広島大学東広島キャンパス・理A017会議室（広島県・東広島市）  
議長：國枝 秀世氏（天文月報2010年6月号 p415 議事録参照）

日時：2010年6月19日（土）13:10～18:00  
場所：東京八重洲ホール5F512号室（東京・八重洲）

議長：國枝 秀世氏（天文月報 2010 年 9 月号 p593 議事録参照）

日時：2010 年 9 月 22 日（水）13:00～14:10

場所：金沢大学角間キャンパス G15 会議室（金沢市）

議長：國枝 秀世氏（天文月報 2010 年 12 月号 p774 議事録参照）

## VI. 委員会（「日本天文学会委員会等に関する共通内規」に準拠）

本年度は以下の 17 の委員会において構成メンバー（任期 2 年の第 2 年目）により各種活動が行なわれた。

### ◇ 欧文報告編集顧問会議

2010 年は 3 月の春季年会時と 10 月に編集委員・編集顧問合同会議を開いた。主な議題は如何にして PASJ への投稿を増やし、かつ国際化するか、ということであった。日本人著者の論文が PASJ 以外にどのくらい流れているかの調査を行った結果、PASJ への論文の 3 倍くらいが外国他誌に流れており、最も多いのは ApJ であるが、流出割合には分野によって差があることがわかった。他誌に流れている論文を PASJ に呼び戻すと、天文学会としては赤字が増えるので、その対策と組で考えていかなければならない。国際化の手始めとして、編集委員に東アジア地域から 1～2 名の参加を募ることが議論された。

### ◇ 欧文研究報告編集委員会

2010 年度は、214 篇の論文の投稿があった。通常号を 6 回発行し、掲載総論文数 136 篇、総ページ数は 1,666 頁となった。また、第 4 号には京都大学飛騨天文台の特集論文を掲載した。トムソンロイター社による 2009 年の Impact Factor は、5.022 となり、前年の 4.429 からさらに上昇した。昨年に続く上昇は、2007 年発行の「すざく」、「あかり」、「ひので」特集増刊号の効果によるものと考えられる。新たなサービスとして、希望者への紙版送付停止、「E-Open」（著者の追加費用負担により、刊行後 2 年間のアクセス制限を解除）、掲載論文目次の TENNET への配信、を開始した。

### ◇ 天文月報編集委員会

第 102 巻 1 号～12 号、総ページ数 840 頁、総目次 10 頁、発行部数 3200 部、毎月 20 日発行、月報記事投稿用アップローダーの新設、林忠四郎賞シリーズ企画など。

### ◇ 年会実行委員会

2009 年度日本天文学会春季年会（3 月 24～27 日・大阪府立大学）および秋季年会（9 月 14～16 日・山口大学）を開催した。準備にあたっては、1 月 8 日（木）および 7 月 1 日（水）に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。

### ◇ 天文教育委員会

年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（共催）を開催した。2010 年度以降開催分についても準備を開始した。ほとんどの検討は随時電子メールで行っているが、それぞれの年会時に正式の委員会を開いた。講師派遣プロジェクトについて議論し、より有効に機能するよう体制・内容の修正を行うための検討を開始した。

### ◇ 選挙管理委員会活動報告

選挙管理委員会は、2010 年秋季総会に承認される理事長（任期：2011 年～2012 年）候補者の選挙に

ついて、定款第 34 条及び理事長選挙施行細則（「以下細則」）第 6 条に則り、天文月報 2010 年 5 月号（第 103 巻 5 号、4 月 20 日発行）にて公示を行った（締切 2010 年 5 月 31 日）。推薦された候補者が 1 名であったため、細則第 5 条「推薦された候補者が 1 名の場合は、投票を行わず、選挙管理委員会は推薦された候補者を理事長候補者とする」規定により、選挙は行わず、細則第 8 条に基づき、選出された理事長候補者を 2010 年 7 月に開催された評議会に報告するとともに、天文月報 2010 年 7 月号に発表した。

◇ 林 忠四郎賞選考委員会

天文月報 2010 年 10 月号並びに学会ホームページで受賞候補の推薦を会員にお願いした。そして 12 月 9 日の国立天文台・三鷹における選考委員会において、推挙された候補者・候補論文の中から林賞 1 件・論文賞 2 篇を選考し、評議員会に推薦することとした。

◇ 研究奨励賞選考委員会

2010 年度(第 22 回)の研究奨励賞受賞候補者 3 名を選考し、評議員会に推薦した。

◇ 天体発見賞選考委員会

2010 年度の天体発見賞候補者及び天体発見功労賞候補者、天文功労賞受賞候補者を選考し、評議員会に推薦した。

◇ 内地留学奨学金選考委員会

2011 年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行い、応募者から 2 名の奨学生（12 万 8 千円の支給）を決定した（天文月報 2011 年 1 月号参照）。なお、2010 年度は 1 名の奨学生に 12 万 8 千円の支給を行った。

◇ 早川幸男基金選考委員会

渡航旅費補助者の募集を年 4 回行った。延べ 39 名の応募者（うち 5 名は滞在費援助希望）から 18 名（うち 5 名は滞在費援助）を採択した。ここ数年の平均的な応募者数であり通常の年と同程度の援助を行った。1 名の辞退者が出たため予定援助額を割り込み、援助額は 228 万円となった。本会会員の佐藤 明達氏より当基金へ寄付を頂いたのでここに深く感謝したい。

◇ ネットワーク委員会

事務所内計算機を常に適正な状態に保守し、重要データ等のバックアップを適切に行った。会員からの要望に応じて、入会手続きが Web から出来るようにするオンライン入会処理の実施を春から開始した。またサーバー計算機の更新も行った。

◇ 天文教材委員会

2009 年 4 月の科学技術週間に、国内の小中高校、科学館に配布した「一家に 1 枚天体望遠鏡 400 年」ポスターの監修を担当した。

◇ 創立 100 周年記念出版事業編集委員会

2009 年 12 月に「シリーズ現代の天文学」全 17 巻の刊行を完了した。理事長と編集委員長が、寄付者を訪問し、このことを報告するとともに、日本天文学会からの感謝状とシリーズ全巻を贈呈した。12 月 20 日に東京大学小柴ホールで完成記念シンポジウムを開催した。講演内容は、2010 年 11 月発売の数学セミナー別冊「宇宙はどこまでわかったか？」（日本評論社）にまとめられている。これで本委員会は 8 年間にわたった任務を完了した。2010 年 9 月の年会時に開催された評議員会においてこのこと

を報告し、本委員会は今年度をもって解散し、関連内規も廃止することが了承された。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2009年度日本天文学会春季年会において、第11回ジュニアセッションを開催した。3月26日に行われた口頭発表では47件の発表があり、ポスターのみの発表の4件を含めると、合計51件の発表があった。

◇ 男女共同参画委員会

多様な構成メンバーがそれぞれの力を発揮して天文学会のより一層の活性化を図ることができるよう、共同参画の努力をまとめ、対外的な活動の窓口としても活動している。2009年度は「夢は宇宙を翔る星空巡業プロジェクト」と銘打ち、科学技術振興機構の助成を得て、女子中高生向けに「君もガリレオ」体験や講演会を多数実施、また国立女性教育会館主催の女子中高生夏の学校にも参加し、世界天文年を周知する活動の一翼も担えた。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

第17回衛星設計コンテストに参加し（共催としては3回目）、首都大学東京のチームのバイナリブラックホール探査衛星「ORBIS」に日本天文学会賞を贈った。

## VII. 助成金（定款第2章第5条5,7項に該当の事業）

◇内地留学奨学金：

アマチュアを対象とした内地留学奨学生1名に12万8千円の支給を行った（内地留学奨学金選考委員会の項を参照）

◇早川基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として18名に対して総額228万円の援助を行った。（早川幸男基金選考委員会の項を参照）

◇学生の年会参加旅費補助：

賛助会員会費を基に、大学院生等が春季年会（広島大学）・秋季年会（金沢大学）に参加して研究発表するための旅費の一部補助を行った（発表者84名に対して、総額1,230,000円）。

## VIII. 後援事業等（定款第2章第5条6項に該当の事業）

国際・国内シンポジウムなどの共催3件、後援16件、協賛8件を行った。

	事業名	宛先（代表者）
後援	天体天文物理若手夏の学校	石川遼子
後援	科学教育研究会第57回全国大会	吉埜和雄
共催	高校生天体観測ネットワーク全国フォーラム	渡部潤一
後援	宙博2010	海部宣男
4月23日	協賛 日本流体力学	日本流体力学会

協賛	レーザーセンシングシンポジウム	レーザーダ研究会 水谷公平
後援	青少年のための科学祭典2010 (日本科学振興財団)	有馬朗人
協賛	Workshop on Interstellar Matter 2010	高野秀路
後援	第24回天文教育委員会	直井雅文
後援	2010秋季年会	金沢大学学長
後援	2010秋季年会公開講演会	金沢大学学長
後援	2010秋季年会公開講演会	石川県教育委員会
後援	2010秋季年会公開講演会	金沢市教育委員会
協賛	物理学会セミナー「スピントロニクス、最先端の物理と技術」	日本物理学会
共催	高校生天体観測会(6/26部分月食、12/21皆既月食)	渡部潤一
後援	第8回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ2010	朝日新聞社
後援	三鷹市政60周年記念イベント「三鷹の森科学文化祭」	三鷹ネットワーク大学
後援	第6回天文学の普及をめざすワークショップ	天文学情報センター
後援	平成22年度「三鷹・星と宇宙の日」(三鷹公開日)	国立天文台長(観山正見)
協賛	H22「女子中学生夏の学校2010～科学・技術者のたまごたちへ」	国立女性教育会館
後援	「子どもたちのジオ・カーニバル」	「地学教育を考える大阪フォーラム」
共催	第54回宇宙科学技術連合講演会	日本航空宇宙学会
協賛	可視化情報学会全国講演会(鹿児島2010)	可視化情報学会
後援	スカイプラネタリウム～一千光年の宇宙を旅する～	六本木ヒルズアーツセンター 東京シティビュー企画
後援	「星なかまの集い～天文楽サミット」	実行委員会 委員長 福原直人
協賛	超大型レーザーによる高エネルギー密度科学の展開	大阪大学レーザーエネルギー学 学研究センター
協賛	第6回光応用新産業創出フォーラム	日本光学会
協賛	第36回光学シンポジウム	(社) 応用物理学会・日本光学会
共催	衛星設計コンテスト	JAXA

また、日本の天文研究・教育アマチュア活動を結ぶ全国組織として新たに発足した日本天文協議会にも日本天文学会は団体会員として加わるようになった。

## IX. 民間の各賞・研究助成等への推薦 (定款第2章第5条5項に該当の事業)

民間財団等の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、理事長・副理事長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(東レ科学技術賞1、東レ科学技術助成1、日本学術振興会育志賞1、井上學術賞1、日本学術振興会賞2)

## X. 事務所活動 (定款第1章第2条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員2名と約十名の非常勤職員により、本会の各事業に関する実際的な業務活動が行われた。また東條前事務長が2009年末で定年退職されたことに伴い、2010年から宮下曉彦氏が新事務長に着任した。

## XI. 補助金・その他

2011年3月の筑波大学での学会時の公開講演会に、科学研究費補助金（研究成果公開促進費「研究成果公开发表（B）」（文部科学省研究振興局学術研究助成課）より100万円を受領した。また、欧文研究報告(Publications of the Astronomical Society of Japan : PASJ : 学術定期刊行物)に科学研究費補助金（学術定期刊行物、科学研究費補助金：日本学術振興会）780万円を受領。

また、会員からのPASJ 寄贈86部のうち43部を発展途上国及びPASJ 購入困難な国に寄贈（26ヶ国）している。

### 会 員 数

2010年12月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2009年12月31日	1,727(337)	1,208	38	34	3,007
入 会	108( 99)	40	0	9	157
退 会	59( 25)	55	1	0	115
移 籍 (増)	10( 6)	27			
移 籍 (減)	27( 1)	10			
正会員へ(学生減)	( 52)				
2010年12月31日	1,759(364)	1,210	37	43	3,049

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

定款第12条に基づき、1月31日の評議員会議決を経て、正会員23名（内学生15名）、準会員11名が2008年度からの会費未納のため除名された。

(文責 庶務理事：竹田 洋一)